

自校でできる  
読み解き研修会の  
ススメ!

# 次期学習指導要領を読み解く意義を伝え、 対話的な研修を実施する

2018年3月に公表された高校の次期学習指導要領は、22年度からの教育・指導のよりどころとなる。各教師の理解のばらつきを防ぎ、学校全体でその本質をつかむための有効な手段として考えられるのが、校内研修の活用だ。ここでは、P.6～9で紹介したような、次期学習指導要領を対話的に読み解く校内研修を実践する際のポイントや進め方を解説する。

## 教育環境の変化を 教師集団が共通理解するために

次期学習指導要領で描かれる教育は、かつてない大きな変化である。特に、「何を知っているか」とどまらず、「何ができるようになるのか」にまで発展させる指導目的の転換は、授業の変化だけでなく、教科や学年、学校総体としての指導のあり方の変化を求めており、校内研修などを活用した教師集団としての目線合わせは喫緊の課題だ。P.6～9で紹介したような「次期学習指導要領」の読み解き研修は、以下のような流れで設計するとよいだろう。

### 次期学習指導要領を読み解く 校内研修のデザイン例

#### 事前準備

1～2週間前に通知

参加する教師に事前に  
「次期学習指導要領」に目を通してもらう

個人  
活動

校内研修に先立って、個々で次期学習指導要領の「前文」「総則」「(担当する)教科」の内容に目を通しておいてもらう。

#### 校内研修

校内研修として1～2時間かけて実施

#### 1 「前文」「総則」を読み解く

グループ  
活動

疑問点・不明点をグループで語り合い、その解消を図る。解消できなかった疑問点・不明点は参加者全員で協議。

#### 2 「教科」を読み解く

グループ  
活動

まず、教科団ごとに共感した点や違和感・疑問を持った点を語り合った後、さらに教科をシャッフルし、教科横断での共通点や傾向などを語り合う。

#### 3 ワークシートで振り返る

個人  
活動

グループ  
活動

研修で得られた気づきとこれからの自分の課題、取り組むべきことをワークシートで言語化し、参加者間で研修の成果として共有する。

#### 事後活動

管理職、ミドルリーダーが  
研修の成果を1～2週間程度でまとめ、  
全教師に今後の工程を伝える

校内研修の結果を  
学校改革の工程に生かす

校内研修の結果見えてきた「次期学習指導要領」に向けての校内の課題を整理し、今後の学校改革のプロセスでどのように取り組んでいくのかを全教師に伝える。

## 校内研修のプログラム例

**事前準備** 出席者は事前に「前文」「総則」「(担当する)教科」を読んでおく。「前文」「総則」では疑問点や不明点を、「(担当する)教科」では共感した点・違和感を持った点・疑問点をそれぞれチェックし、研修に臨む。

- 用意するもの**
- ・ホワイトボード(または模造紙)
  - ・大判の付箋
  - ・ワークシート

### 1 「前文」「総則」を読み解く 目安30分間

- ① 4、5人のグループで疑問点や不明点を付箋やホワイトボードに書き出していく(10分間)
- ② グループで疑問点や不明点の解消を図る(10分間)
- ③ グループで解消できなかったことを全体で協議する(10分間)



### 2 「教科」を読み解く 目安1時間

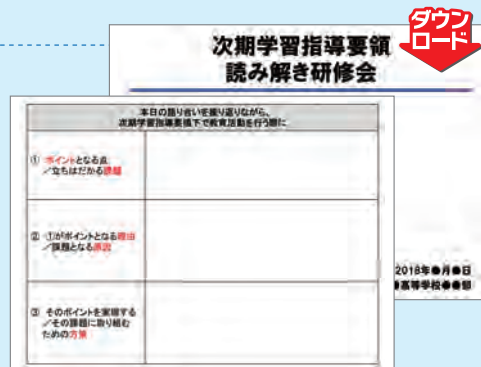
- ① 各教科団で学習指導要領の自教科の部分について共感した点・違和感を持った点・疑問点を挙げ、付箋やホワイトボードに書き出す(10分間)
- ② 書き出した付箋・ホワイトボードを各教科団内で確認し、気づいた点を出し合い、共通点や傾向を探る(5分間)
- ③ 各グループに1人の教師を残して、それ以外の教師は別のグループに移動し、教科混合になる。新しいグループの教師に対し、自教科で語り合った内容を、互いに共有する(20分間)
- ④ 教科を超えて共通点や傾向などを語り合う(25分間)
- ⑤ ホワイトボードなどに書き出した内容は、多くの教職員が目に見えるように一定期間校内に掲示する



### 3 ワークシートで振り返る 目安20分間

- ① 「今後の課題」「課題と考える理由」「課題への向き合い方」の3項目で、校内研修で得られた気づきと今後の自身が取り組むべきことを整理する(10分間)
- ② 4、5人のグループまたは各教科団内でワークシートの内容を1人ずつ発表し、共有する(10分間)

\* 振り返り用ワークシートのデータと、上記プログラムを進めるためのシナリオが書かれたスライドのデータを、ダウンロードしてご活用いただけます。



読み解き研修+αの意義

次の10年間に向けて  
語り合う文化を校内に育む

実際に数人の教師と次期学習指導要領の読み解きを行うと、「社会に開かれた教育課程とは、本校においては具体的にどのようなものを指すのか」「『基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得』とあるが、従来の授業と何が異なるのか」など、様々な疑問が立ち上がってくる。それらの「問い」は、校内ですぐに共通の答えが得られるものではなく、さらに学校の置かれている状況によって、その答えも変化していくものである。次期学習指導要領への読み解きを、これからの10年を見通して、「語り合う学校文化」の醸成のきっかけとしていただきたい。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<http://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。

「HOME→教育情報→高校向け→生徒指導・進路指導ツール集」でご覧ください。